

衆議院選挙で野党共闘の推進をめざし、立憲五野党と参議院の2会派に要請行動を行いました

4月に行われた、衆院北海道2区・参院長野区補選、参院広島選挙区再選挙の三つの国政選挙での野党統一候補が勝利しました。この勝利は、菅自公政権に痛打を与え、政権交代で野党連合政権を実現する総選挙にむけて重要な意義を持ちます。

こうした情勢を受けて、来るべき総選挙に向けて、全日本年金者組合は7月29日、立憲民主党の枝野幸男代表、日本共産党の藤野保史衆議院議員、国民民主党の国対委員長吉川元久衆議院議員、社会民主党党首の福島瑞穂参議院議員、れいわ新撰組の船後靖彦参議院議員、参議院の碧水会の嘉田由紀子参議院議員、沖縄の風の伊波洋一参議院議員に対し、衆議院総選挙で野党共闘の推進を要請しました。沖縄の風の伊波議員は不在で要請できませんでしたが、5野党と碧水会は、緊急要請に対し誠実な対応をしてくれました。

特に、れいわ新撰組の参議院議員からは最低保障年金制度の必要性が語られ、「財源論含めて制度設計を検討したい」との要請がありました。また、日本共産党との懇談では、「市民と野党の共闘で菅政権を一刻も早く退陣させ、政権交代を実現すること」の重要性が語られました。

要請内容は、①菅自公政権と補完勢力を過半数割れに追い込むため、小選挙区統一候補擁立など最大限の協力を行う、②小選挙区統一候補者の当選に向けて、最大限の協力を行う、③市民連合の「立憲野党共通政策の提言」を選挙公約に掲げ、選挙戦をたたかうの3項目です。要請行動には、年金者組合の杉澤委員長、廣岡書記長が参加しました。

れいわ新選組の船後議員に最低保障年金制度第三次提言を届けたところ、「最低保障年金制度の提言ありがとうございました。財源論含めて非常に難しい問題をはらんでいると思いますが、頂いた資料を含めて制度設計について検討したく存じます」と、お礼の文書が届きました。

2021年8月3日



(写真) 藤野氏(右)に要請する杉澤(中央)、廣岡(左)の両氏=29日、衆院第2議員会館